

令和7年度 こども・若者育成支援研修 ～地域における多様なアプローチを学ぶ～ シラバス

【オンライン研修】令和7年7月10日(木)

◆開会の挨拶、こども家庭庁におけるこども・若者施策の動向

[こども家庭庁]

◆こども・若者育成支援を捉える視点

★文教大学 人間科学部 准教授 青山 鉄兵 氏

【プロフィール】

社会教育分野を中心に子ども・若者の体験活動や居場所の研究・実践・政策に関わる。文部科学省生涯学習調査官、国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター客員研究員、中央教育審議会社会教育のあり方に関する特別部会委員、こども家庭審議会こどもの居場所部会委員、東京YMCA長期キャンプ「野尻学荘」副荘長などを兼務。

【講義概要】

この時間は、研修全体の導入として、集合研修を受講する上での前提となるような内容について皆さんと一緒に確認していきます。

一口にこども・若者の育成/支援といっても、その在り方は多様です。この講義では、地域におけるこども・若者育成支援が求められるようになった背景を踏まえ、多様な領域における実践の広がり捉える上での基本的な視点について確認します。その上で、多様な広がりの中にある共通の基盤（理念や方法論など）としてどのようなものがあるかについても合わせて検討します。



◆研修および施設等見学会説明

★司会進行：文教大学 人間科学部 准教授 青山 鉄兵 氏

【集合研修1日目】令和7年7月16日（水）

◆ガイダンス・顔合わせ

★司会進行：文教大学 人間科学部 准教授 青山 鉄兵 氏

◆困難な状況の中にいる子どもや家族のストレングスの発見とその活用を考える

★新潟大学附属学校部 スクールソーシャルワーカー

長田 美智留 氏

【プロフィール】

社会福祉士。児童養護施設指導員を経て子どもに関わる仕事を多数経験後 SSW となる。現在は SSW の他、県内の小中高校で SC としても勤務。新潟県ヤングケアラー支援検討委員会委員長。現在、SSW の密着取材映像「お母さんがおにぎりを握れるように」が YouTube で配信されている。個人的活動として地元 FM で「迂闊なラジオ」担当。子どもや人にまつわる「ぐっときた瞬間エピソード」をゲストに招き放送中。東京藝術大学履修証明プログラム「DOOR」修了。子ども達はじめ多様多彩な人々との出会いに力をいただきながら活動中。



【講義概要】

1、問題行動のアセスメントと具体的支援～アウトリーチの活用

「今週の土曜日の朝、8時ジャストにキミの家に迎えに行くから、一緒に電車に乗って行ってみようよ」中学生はコクンと頷いた。この子は一言も喋らないけど意志は固い。「不登校支援」から始まった SSW の動きと、5時間半の二人旅の様子を含む子どもや家族の変化を共有し、自分の世界を拓いていく子どもや家族の姿をお伝えしたい。

2、ストレングスの発見と活用～特性の受容と家庭の力

困難な状況の中にあってもエンパワメントの材料は必ず存在していると実感している。ワークショップでは事例支援の具体化に向けて当事者や家族、その環境が持つストレングスの発見と活用を多様な立場にいるであろう参加者の皆様と一緒に検討したい。

【集合研修2日目】令和7年7月17日（木）

◆若者の就労支援をどうするか

★立教大学 コミュニティ福祉学部 特任教授 津富 宏 氏

【プロフィール】

少年院の法務教官として19年間勤務後、静岡県立大学に移り2024年3月退職。現在は立教大学コミュニティ福祉学部特任教授。専門は犯罪学、評価研究。静岡で市民活動に取り組み、青少年就労支援ネットワーク静岡における就労支援は「静岡方式」として知られる。スウェーデンに20年間にわたり通い続け、ユースセンターをはじめとするさまざまな取組を訪ねる。同時に、静岡県立大学では、ユースワークをテーマにするサークルのほか、多くの学生活動にかかわってきた。



【講義概要】

- ・若者の就労支援の理念、就労支援にあたっての基本的な考え方を身に着ける
- ・若者の就労支援に当たっての、具体的な方法について学ぶ。
- ・これらを踏まえて、支援とはそもそも何なのかについて理解を深める。

◆ローカルネットワークで目指すこども若者の包摂

★NPO 法人 こおりやま子ども若者ネットワーク/ユースセンターゆ〜くる ユースワーカー・福島県ひきこもり相談支援センター センター長 櫻井 龍太郎 氏

【プロフィール】

東京都世田谷区で育つ中で様々な市民活動から影響を受け、学生時代に NPO 法人せたがやっこ参画推進パートナーズを設立、理事長に就任。大学を休学し、モデル事業として世田谷区初のユースセンター「オルパ」を運営。事業終了後認定 NPO 法人文化学習協同ネットワーク入職、世田谷区立野毛青少年交流センター立ち上げ時から従事。2018 年郡山市へ移住。スクールソーシャルワーカーの傍ら(2023 年退職)こおりやま子ども若者ネットワークの事務局を務め、現在はこおりやま子ども若者ネットワークセンターゆ〜くるユースワーカー兼福島県ひきこもり相談支援センター長として活動。



【講義概要】

NPO 法人こおりやま子ども若者ネットワークは郡山市を中心に子ども若者に関わる 30 の団体個人で組織するネットワーク団体である。子ども若者の社会的排除を解決するために多領域がつながること、そして子ども若者を支援対象としてのみ見るのではなく、ともに地域をつくる仲間として協同していくことを大切にしている。以上の価値観のもと若者発信でスタートしたユースセンターづくりの事業やひきこもり支援事業等から見えてきた子ども若者支援の在り方について検討する。

◆地域におけるインクルーシブな場づくりと学びの支援

★国立市教育委員会 教育部公民館(生涯学習課兼任)／館長補佐・社会教育主事
井口 啓太郎 氏

【プロフィール】

2009 年より国立市公民館にて、障害者と非障害者の若者たちが共に活動する「コーヒーハウス」に携わる。2018 年から文部科学省で障害者の生涯学習政策を担当。2022 年より現職に帰任し、新規事業「リカバリーの学校@くにたち」の立ち上げに関わる。2023 年 10 月より文部科学省「障害者の生涯学習推進アドバイザー」を兼務。執筆した論文は、「障害をもつ人々の社会参加を支える学び」(佐藤一子・田中雅文『共生への学びの構築』東京大学出版会、2025 年所収)や「若者問題に対する公民館実践の課題と可能性」(日本社会教育学会編『子ども・若者支援と社会教育』東洋館出版社、2017 年所収)などがある。



【講義概要】

講義では、公民館という地域の社会教育施設を拠点にした、以下二つの具体的な実践事例を紹介します。ひとつは 1970 年代より歴史的に積み重ねられてきた障害や困難の有無にかかわらず若者が共に学びあう「コーヒーハウス」。もうひとつは 2023 年から開始された精神疾患・発達障害や生きづらさを抱える市民の学びを支える「リカバリーの学校@くにたち」。これらの事例の検討を通じて、インクルーシブな場づくりと学びの支援のあり方を参加者と一緒に考えたいと思います。

【集合研修 3 日目】令和 7 年 7 月 18 日(金)

◆ユースワークから考える若者期の支援の理念と方法

★日本福祉大学 社会福祉学部 講師 両角 達平 氏

【プロフィール】

日本福祉大学 社会福祉学部 専任講師 / 静岡県立大学 国際関係学研究科付属 CEGLOS 客員共同研究員 / 国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 客員研究員。1988 年生まれ長野県出身。若者の生活世界を再構築するための実践・社会のあり方について、ヨーロッパ(特にスウェーデン)の若者政策、ユースワーク、若者参画の視点から研究・実践。主な著書に『若者の権利と若者政策』(分担執筆)明石書店、『若者からはじまる民主主義-スウェーデンの若者政策』(単著)萌文社、『政治について話そう！-スウェーデンの学校における主権者教育の方法と考え方』(共訳)アルパカ、がある。



【講義概要】

日本よりもはるかに社会の流動化、複雑化が進むヨーロッパにおいては 2000 年前後から若者政策が成立し、各国ごとに子ども・若者の余暇の保障や育ち、社会的包摂を担う

実践の枠組みは異なるも、実践主体としてユースワークが位置付けられてきた。ヨーロッパの若者政策の展開は、日本における 2009 年成立の子ども若者育成支援推進法設置の際に参考にされてきており、近年では欧州のユースワークを参考にした実践が日本各地でも展開されている。

本講義では、若者期の理念と方法について、ヨーロッパにおける若者政策とユースワークの理解を深め、若者支援・青少年教育の現場における展開を考える。

〔施設等見学会行き先一覧〕令和7年7月18日（金）

〔世田谷区立希望丘青少年交流センター「アップス」〕

14:00～15:30 頃

【ホームページ】 <https://ups-s.com/index.html>

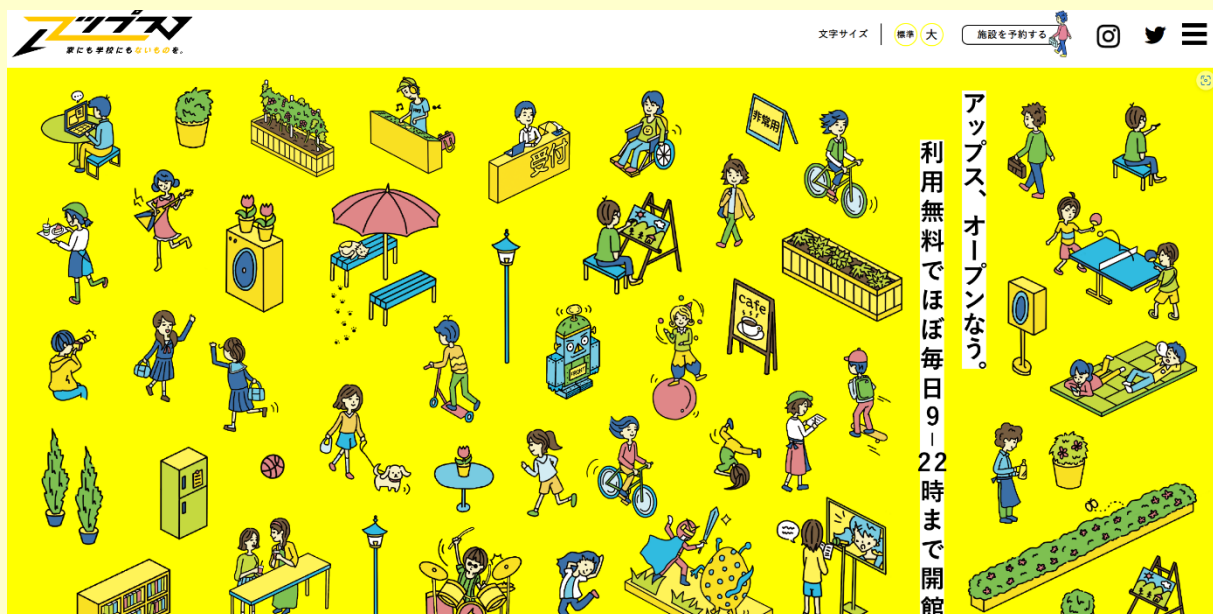
希望丘青少年交流センター、愛称「アップス」は
いつでも、気軽に使える若者のためのフリースペースとして開設されました。
一人で気軽に、友人との交流の場に、大きなイベントや
小規模のワークショップなどにもお使いいただけます。

勉強・遊び・音楽・スポーツ・料理などと利用の仕方は人それぞれ。

予定なく、ふらりと来られる方も大歓迎です。

あなたの、あなたらしいアップスの使い方を見つけてください。

みなさんのご利用をお待ちしております。



【b-lab (文京区青少年プラザ)】

14:00~15:30 頃

【ホームページ】 <https://b-lab.tokyo/>

「b-lab (ビーラボ)」とは、2015 年 4 月にオープンした教育センター (複合施設) の中にある区内初の中高校生専用施設です。

b-lab は、いつでも、なんでも挑戦できる中高生の秘密基地です。

リビングのようにくつろげたり、みんなでわいわい勉強したり、新しい友だちと出会ったり、バンド活動やダンスができたり、やりたいことに思いっきり打ち込んだり・・・

学校とも塾とも違う、新しい放課後がここからはじまっています。



〔調布市青少年ステーション CAPS〕

14:00～15:30 頃

【ホームページ】 <https://www.chofu-caps.net/>

調布市青少年ステーション CAPS（以下 CAPS）は「家」、「学校」でない、
中・高校生世代が「安心安全」に過ごすことができる第三の居場所施設です。

三つの居場所

1. 「居場所」・・・安心・安全に過ごすことができる場所
2. 「活場所」・・・音楽、ダンス、クラフト、スポーツ、サブカルチャー等の活動が
出来る場所
3. 「生場所」・・・中・高校生世代が自主的にイベント等の企画・運営が出来る場所

この「CAPS」という場所で、中・高校生世代が「自分のままで」
過ごすことができ、「誰かと」出会い、その出会いをきっかけに、
新たに出会いを「つなげて」いける人が増えることでより
楽しい居場所になります。

中・高校生世代の皆さん

利用方法は人それぞれ「仲間と過ごす」「ダンス・音楽の練習をする」
「勉強をする」「イベントを企画する」「スタッフと話す」「寝る」「ボーっとする」
等、自由です。

この「CAPS」は皆さんが主役です。個性溢れるスタッフが皆さんの
「ありのまま」をサポートします。
一緒に盛り上げ、楽しみましょう！



調布市にある中学生・高校生世代のための児童館

ホーム ABOUT CAPS 施設情報 年間行事 日常イベント・講座 みんなのページ 相談したい時 保護者・地域の方へ 卒業生へ

CAPSオンライン Q&A

< 決定! >
CAPS More Friend Festival ライブ 2025
2025年3月22日(土)に開催!

みなさんこんにちは。
こんばんはの人はこんばんは。
あるいは、おはようの人もあるかもしれません。
2月ですね。



卒業ライブ 開催決定!!

© 2025年2月12日

みなさん、こんにちは！音楽担当の長谷川です！寒いのと花粉とのダブルパンチですね！さて、この度3月に例年通り卒業ライブを行う事が決定しました！3/22(土)に行きます。3/21(金)に前日準備があります。エントリー [...]

[READ MORE](#)

【国立市公民館・青年室事業「コーヒーハウス」】

14:00~15:30 頃

【ホームページ】

<https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/soshiki/Dept08/Div05/kouza/11032.html>

「コーヒーハウス」とは、国立市公民館における障害の有無に関わらず共に活動する各種公民館事業や市民団体が運営するカフェ「喫茶わいがや」などの

取り組みによって構成されている若者たち主体の社会教育実践の総称です。

ふらっとコーヒーを飲みに行くことができる居場所であり、集まる人とつながり、新たな活動が生まれる拠点であり、多様な背景のある若者が学びあう場でもあります。近年では、文部科学省の政策が開始された「障害者の生涯学習」の活動事例としても、

注目されていますが、1970年代後半から継続している歴史ある取り組みです。施設等見学会当日は、近年開始した「中高生のための学習支援」の事例も紹介します。

「障害」だけではなく、生きづらさや孤立など社会参加に課題を抱える子ども・若者も含め、「インクルージョンの学び」がキーワード。

また、社会教育主事や社会教育士（称号）の公民館職員が、この活動を支えていることもポイントの一つです。



ココでしか、
出会えない人がいる。

ボランティアって言ったら楽しすぎるし、ただの遊びにしては奥が深すぎる…。
ここで色々な人に出会って、ちょっと世界が広がった。

公民館と一緒に活動する
**スタッフ
募集中**

国立市公民館コーヒーハウス

【特定非営利活動法人 サンカクシャ】

14:00～15:30 頃

【ホームページ】 <https://www.sankakusha.or.jp/>

サンカクシャは、親や身近な大人を頼れない15～25歳くらいまでの若者が孤立せず、自立にむかえるよう、若者の社会サンカクを応援する団体です。

生きていく意欲、何かに取り組もうとする意欲を失ってしまった

若者へ丁寧に伴走し、サンカクシャの活動を通じて、

若者が社会との繋がりを得て、安定した生活を送り、

自分らしく生きていくことができるようサポートをしていきます。

また、地域や企業の大人もこの活動に「サンカク」し、若者も大人も年齢や立場、肩書きを超えて、支え合うつながりを作っていきます。



【川崎市子ども夢パーク】

14:00~15:30 頃

【ホームページ】 <https://www.tamariba.org/yumepark/>

川崎市子ども夢パークは、「川崎市子どもの権利に関する条例」の具現化を目指した施設です。

権利主体としての「子どもの最善の利益」をすべての子どもが享受できることを目指しています。

“子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所”を理念とし、下記のことを中心に運営をしています。

○ “自己肯定感を育む” “自尊感情を高める” など、「いのち」を

まん中に据えて、子どもの最善の利益を求め、考え続けること。

○ 子どもが安心してありのままの自分でいられることを尊重し、自分の中からわき出る「やりたい」、「やってみたい」という思いを実現できること。

○ おとながやらせたいものをやらせられるのではなく、子どもが自分で決め、自由な発想で挑戦でき、安心して失敗できること。

○ 子どもが今やりたいことができる、保障されること。

夢パークは、冒険遊び場（プレーパーク）となっており、土や水、火や木材などの自然の素材や道具や工具を使い、子どもたちの遊び心によって自由につくりかえられる遊び場です。ここでは、子どもたちの「やってみたい!」という気持ちを大切にしています。遊びを制限するような禁止事項をできるかぎりつくらないことで、子どもたちが自分で考え、決めて実行するプロセスを大切にしています。



【フリースペースえん】

【川崎市子ども夢パーク】と同じ

【ホームページ】 <https://www.tamariba.org/en/>



夢パークの中にある日本初の公設民営のフリースペースです。学校や家庭、地域に居場所を見出せない子どもや若者たちが、学校外で多様に育ち、学ぶ場です。

来たいと思う人は、年齢や国籍、経済的状況、障がいのあるなしに関わらず、誰でも来ることができます。日常の暮らしを大切にしながら、子

どもの「いのち」を真ん中に、「生きている」ただそれだけで祝福される、そんな場をみんなでつくっていきたいと考えています。

暮らしを大切に、毎日のお昼ご飯は、みんなで作って一緒に食べます。決められたカリキュラムはありません。その日一日をどのように過ごすかは、子どもたち一人ひとりが自分で決めます。

さまざまな講座が行われており、キャンプやスキーなどの野外体験もあります。個別学習支援や本人および保護者への相談・援助事業、学校との連携もしています。